

おくさわ今と昔

日暮れのジャガイモ

奥沢2丁目 香山万理恵

私は奥沢で生まれ育ち、今も同じ場所に暮らしています。

私の子供時代—昭和30年代初めの奥沢には、田園の雰囲気の色濃く残っていました。緑の垣根に囲まれた家々は、幅広の窓や縁側、さりげなく手入れされた庭を持ち、街全体に、節度ある解放感と穏やかな調がありました。庭先に鶏舎を造っているお宅も多く、コッココッコというのどかな鳴き声が、いつもどこからか聞こえていました。道路は未舗装で、大井町線の線路脇の土手には、春になると土筆が顔をだしました。木造の家並みや連なる垣根、土の道路に落ちる光や影は、コンクリートやアスファルトに射す今のそれよりも、ずっと、やわらかかったような気がします。

特に忘れられないのは、隣家の石井家で味わった「焼きジャガイモ」です。

旧家である石井家には、二十数年前まで、母屋に隣接した広い畑がありました。とうもろこしやトマト、きゅうりなどが植えられ、竹林やお茶の木が取り囲んでいるその畑を、当時の当主であった伊之助さんが日がな一日、野良歌を口ずさみながら耕していっしょにいました。伊之助さんのお孫さんと同年代の私は、毎日のように石井家に遊びにいき、池や築山のある母屋の庭を駆け回っていました。

私たちが遊び疲れた頃、畑仕事を終えた伊之助さんは母屋の脇の納屋に入り、かまどに火を入れて夕餉のご飯を炊きはじめます。日暮れの気配が忍び寄るなか、納屋のガラス戸に映る炎の照り返しに誘われるように私たちが入ってゆくと、伊之助さんはかまどにくべておいたジャガイモを火かき棒で取り出して、「ほら食べな」と渡してくれます。燃料の枝がはぜる音、ご飯がぐつぐつ炊き上がる匂いの中で食べるジャガイモはほくほくと熱く、胸奥まで温まる格別な味でした。

近年、「高級住宅地」と形容される奥沢ですが、人々の心には郊外生活者の素朴さとのびやかさが、今も息づいている気がします。



昭和32年の自由が丘駅前の風景
東急プラザビルができる前、右が三井銀行です。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



住んで良かった奥沢に!

奥沢2丁目 村崎さわ

昭和51年春3月、主人の会社が東京に本社を移行するにあたり兵庫県芦屋市より、東京東玉川1丁目に引っ越して来ました根っからの関西人一家です。東京の生活が始まった頃、玄関や窓を開ける度、山が見えていたのが見えないものだからとても淋しく感じたのを思い出します。近年は芦屋もマンション建設ラッシュとか—友人の便りで知り何処の地も同じご時世だなあ—と。ようやく東京の水にも慣れ東玉川に20年、奥沢に越して8年、この地にやっと居心地の良さをつかむことが出来たのも何かのご縁があったからでしょう。今から20年以上前友達と自由が丘によくお買い物に歩き廻っていた頃、この近くに住めば便利でいいだろうなあ—と。真剣に思ったのも遠い昔のことになりました。その時の奥沢の印象は家々の庭木がよく手入れされ緑も多く静かなちょっと古風な街並みという印象が残っていましたが、今住人になってちっとも変わっていなかったのが嬉しく一層住みごこちの良さを確認しました。“家を買う時は環境も一緒に”とその通りだと思います。よその土地へ越すという事は大変なエネルギーと勇気がいるものです。私達一家は徒歩でもこれる所へ来てご近所の人達にも恵まれとても幸せに思っています。息子や娘達も近くに住んで心丈夫です。最近では平和な奥沢の街もひたくりや盗難、ボケっと歩いていられなくなりました。毎日ノホホンと暮らしている私には特別変わった事はありませんが、今年わが家にとって最大の慶事は阪神タイガースが優勝した事です。根っからの関西人の私達にとってあ—という間の楽しい一年間でした。お友達に“いい所に住んでいるわねえ”と羨ましがられながら一年も暮れようとしています。ご近所の方々やいろんな事へ感謝しつつ、これからも奥沢の街が平和でありますように。ず—と。

前号の写真は昭和36年の奥沢駅でした。

奥沢・自由が丘あたりの古い風景が写っている写真をお持ちの方はご連絡下さいませようお願いします

このシリーズへの御投稿をお待ちしております。

お話を聞かせ下さる方にはうかがいに参ります。



秋のつどい第2部レポート —猪狩達夫さんのお話

美しい街なみをつくるには

世田谷区の松原に生まれ育った猪狩さんは、現在E & Gアカデミー学院長他数々の要職を務められ、街なみづくりという仕事に取り組んでいらっしゃいます。街なみを大切にする住宅づくりを全国で500ヶ所余り手がけ、「どうすれば美しい街を維持できるか」を豊富な経験をもとに話して下さいました。

〈街なみづくりという仕事〉

いい街なみをつくるにはルールが必要である。自分たちの街に誇りを持つこと・隣人とのつき合いや会話があることが必須条件となる。私達は関西の阪神間、東京の田園調布と成城を25年位前から5年毎にチェックし定期的調査をしている。六麓荘は住友吉佐衛門氏・トップレベルの学者・灘の酒造家などの住人がつくった街で、教育施設として甲南大学を、生活面では灘生協をつくっている。芦屋の場合産業は無く高額所得者の税金で賄っている市なので、市もそれなりの維持を考え、役所と一体になって街を守っている。田園調布は、渋沢栄一氏がイギリスの素晴らしいニュータウンの話聞き、子息に視察させて創り出した街で、田園調布憲章という厳しい制約をつくって昭和4年に形が整った。成城は、その頃に玉川学園創始者小原國芳氏が成城学園理事として参画し、その発想によって生まれている。但し東京の場合は役所に芦屋のような意識は稀薄である。田園調布も成城も相続などの事情によりマンションになったり細分化されて、近所のつきあいも無くなってきた。このように街づくりは理想に燃えた人のロマンに協力する家族・友人・企業があって出来ていくものである。即ち街づくりは理念であり、理念のある街には暗黙の中にもお互いの諒解があってルールが守られ、街が育っていく。既に住宅地として整っている奥沢では、このような最初からの街づくりは不可能だが、地区の形を見ても街だけのコントロールがし易いのではないかと思う。

〈街なみと生活は不可分の関係〉

ガーデンをつくるのも自分だけの楽しみでは無く、個人の作業が街の生活の一部となり生活が街ににじみ出ていくもの。家があって生垣があり、その間に1本の常緑樹がある。これが景観木となって街の景観をつくっていく。カナダでは緑の木のつながりをとても大切にしている。奥沢の景観をつくっている木を、マークをつけて保護したい。

これからは緑の多少が土地の価値に影響する時代。緑を大切にすることによって地価が上がるという事が、東大浅見泰司教授の調査研究によって実証されている。集合住宅でも売れる住宅は、住みたいと思わせる工夫と自分が住んで楽しみがあるので、それには数種類の木を植えて四季に表情を持たせるという緑の工夫が必要である。外観の色彩を街に合ったものにする工夫などには、土とみどりを守る会が区と仲良く連携して、建築する時には会に聞かないと事が進まないうるさい存在になると良いと思う。この一帯は交通も至便で開発業者に狙われやすい場所だから、一層ガードを固くし、建築家とも協力して皆さんの連携プレーで守っていくのが良い。v

〈街なみの映像〉

日本の街なみの例を映像で見せて下さいました。

○電柱と塀—街なみを美しくするには電柱は邪魔な存在。六麓荘は大正末期から電柱も地下に埋設している。全国総合開発計画によって2010年をメドに地下埋設を実現させるという画期的な方針が出されているので、これは大いに期待できる。不可能な場所も電柱の色を目立たなくする方法がある。又、高い塀は犯罪者が隠れやすいが、オープン外構も近づき易い点で昨今厳しい状況にある。これからは、いかにオープンの雰囲気を出しながら安全を守っていくかが課題である。

○道ひろば計画—道の一部に出っぱりを作り木を植えて車のスピードが出せない工夫とか、メタセコイヤの街路樹を植え、緑視率が程よく歩いて気分の良い街や、道路をレンガにして遊び場にした例、道に横縞を入れて拡がり感を持たせている例などを紹介。緑が茂りすぎて街なみが暗くなる例も。

○花が溢れる街—オープン外構でガーデニング積極型の人が集まりつくった街。

○ウッディな街づくり—ガレージ・垣根などに木を使ってレンガや自然石の天然素材と組み合わせ、柔らかい雰囲気の街をつくり出す。

○システム外構—門灯・ポスト・インターホン・メーター類を門柱に入れ、門廻りをすっきりさせた例。

○照明—夜の照明で庭や道を照らす効果的な例。

○まちのギャラリー—アパートの1階をベンチや植栽のあるギャラリーにした設計例。奥沢にもあるが、住宅街にギャラリーが点在すると歩きながらまちの文化を楽しめる。などが紹介されました。

〈街なみを構成する要素〉

分解すると、そらなみ・みちなみ・へいなみ・にわなみ・いえなみの5要素になる。空・道は除き、塀・庭・家についてはこれからの方針として(1)屋根の形と色(2)壁の色(3)カーポートの統一性(4)ブロック・万年塀はやめて緑化を(5)建築の時も現在ある樹木は生かして、新しい木は或る程度の樹種選定をする(6)電柱の美化をはかる等の規則を守っていけば、3年5年たつうちに街なみは美しくなる。

〈街づくりの理念〉

過去の街づくりを振り返って、その街づくり・景観づくりの理念を探ってみると次の3点が浮かび上がる。

(1) 常に自然との対話があり、家族や隣人たちとの会話が絶えない街

(2) ひとりひとりの個性が際立つまちはいつまでも光り輝く。

(3) 他人に対して自慢のできる、誇りが持てるまちであること。街なみには人々の生活感がにじみ出る。美しいまちをつくるには、まず住民自身の生活行動を美しくすることから始まる。

〈住宅建築に係わる協定〉

(1) 地区計画(2) 建築協定(3) 緑地協定がある。細かく定められているが、コミュニティ相互の約束ごとになる。協定を結び意思表示をするということは、経験から云って極めて大切なことである。奥沢の皆さんには是非このまちの制度をつくって頂きたい。そのためにはいつでもお手伝いする、との力強いお言葉で有益なお話を終わりました。(柳島)

グリーンサムのお庭拝見 vol.13

暖かい日差しに誘われてのんびり歩いていると急に視界が開ける。思わずたたずんでしまった。

今回は4丁目29番地の中村家を訪問します。まず開放的なアプローチには2階の窓まで届いているハゴロモジャスミンとその横に四季咲きのアブチロン。右に紫色の花をつけたブルーパターゴとムクゲ。サンルームの中にはシンビジュームと、食べたあとの種を水栽培で育てたアボカドが大きな葉をつけている。左のシロタエギクとお母さまの観葉植物を見ながら門の中へと入る。水色とピンクの花をつけているフランス産の朝顔がパターゴラの柱に絡みつき、一方の柱にはキウイが太い蔓を伸ばしている。ジャスミンのドア飾り。ブライダルベールとアメリカンブルーが下がっている間を通り抜けて屋根付

テラスへ出ると手すりにツルムラサキが巻きついている。右の自作レンガ道の突き当たりにエンジエルトランペットとブルーベリーとモッコウバラ。その下にはヒメツルソバがピンクの絨緞のように広がっている。芝生の枕木道にはお母さまのプレゼントのデュランダとブラックベリー。周りには花菖蒲・紫式部・アガパンサス・バーベナ・ジキタリス・ジンジャーなどの草花がある。

「苗は植えとけばいい。咲かなければ栄養が足りなかったんだとか土が悪かったんだとか思うだけ。でも9月頃に蒔いた種が春に大きくなれば自己満足かもしれないが自慢したくなるわ」とさりりと笑い微笑んだ中村さんの見つめる先に、ビオラ・ポピー・パンジー・アリッサムが沢山のポットの中で育っていました。

春になったら又訪問したくなるお庭でした。(遠藤)

「奥沢・土とみどりの街づくり宣言」の世田谷区への登録について

昨年秋に、奥沢二丁目の「大ケヤキのある散歩道」が世田谷区の地域風景資産として選定されたことが契機となり、玉川総合支所街づくり課、世田谷区都市整備部環境課のサポートを得て、世田谷区の風景づくり条例に基づく仕組みづくりに、土とみどりを守る会が取り組むことになりました。今後は会と区が活動の目標を共有していくこととなります。その最初の仕事は、世田谷区風景づくり条例に基づく「界わい宣言」の区への登録です。会の定例会で検討を重ね、区と打ち合わせを行いながら、宣言(案)を作成しました。右をご覧ください。この内容にご賛同いただいた方々の署名と共に区に書類を提出し、区長が宣言を登録します。宣言が登録されると、今後の継続的な活動のために、コンサルタント派遣、印刷物発行の補助等の支援をしていただける見込みです。

まず、会員の多い奥沢2丁目宣言を登録し、段階的に宣言の対象区域を広げていくことが検討されています。

宣言の内容にご賛同いただき、ご署名いただける方には用紙を持参いたしますので、ご連絡下さい。また皆さまのご意見を受け付けております。なお、今年度中に手続きを済ませるために、1月12日を署名募集の期限とさせていただきますので、どうかよろしくご協力をお願いします。

宣言(案)の名称 奥沢・土とみどりの街づくり宣言

宣言(案)の目標 緑豊かな街並みを維持し、心安らぐ街に
していくための住環境づくり

宣言(案)によって生ずる活動の内容

1. 街並みの調和を大切に、街の歴史を刻む建物など、語り継がれていく風景を皆で守る。そのためには、住まいと街をつなぐものとしての建物の外壁、塀や柵、擁壁などのしつらえの方法や素材選びなどのアイデアを共有してゆく活動を進める。
2. 街並みに寄与している樹木を推奨し、周囲の住民の理解を得て、その保全に努め、新改築時に既存の樹木や生け垣を残す他、壁面緑化などの工夫を通じて、生活空間を豊かにしてゆくための活動を進める。
3. 季節の花がある楽しい街並みづくりや、文化活動を通じてご近所づきあいを活性化し、地域のコミュニケーションを深める活動を進める。

会からのお知らせ

- 恒例の**新春のつどい**は1月31日(土)午後1時30分から、奥沢東地区会館で開催します。第1部奥沢コンサートはひちりき奏者の稲葉明德さん(奥沢2丁目在住)がお正月にふさわしく雅楽の演奏を聴かせて下さいます。第2部は奥沢・土とみどりの街づくり宣言を中心とした懇談会です。どうぞお気軽にお出かけ下さい。
- 土とみどりを守る会は、1月18日に奥沢中学校校庭で行われる、**新春奥沢地区まつり**に初参加します。奥沢の街並み写真展示、ハーブティーのおもてなし、先着100名様へのチェリーセージの苗の配布などをいたします。どうぞお立ち寄り下さい。

- **会のホームページ**を開設しました。今後、かいわい宣言の経過報告の他、土・まち・みどりのバックナンバーなどを掲載していく予定です。どうぞご覧ください。

<http://urbanecology.jp/tsuchimidori>

編集後記： 寒風の中でも草木は静かに芽を育て、春の準備を進めています。少しずつ伸びる日足を楽しみながら、光の春の訪れを待ちましょう。おかげを召されませんように。(Y)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢2-41-2 柳島尚子 3718-8558